2001 年度第 3 号(通巻第 15 号)

フィールドレポーターだより!!

今年の春は足早に過ぎてゆき、まだ 4 月だというのにすでに初夏の陽気を感じさせる毎日が続いています。このままでゆくと、夏はどのくらい暑くなるのだろうと危惧してしまいますが、エルニーニョが発生しているため、冷夏になるかもしれないという予想もあるようです。ここ数年徐々に温暖化が加速し、異常気象が多くなっているように思うのですが、皆さんはどのようにお感じですか。

ところで、ちょっと遅くなってしまいましたが、昨年度 2 回目のフィールドレポーター調査「身近な鳥を調べよう」に関するレポーターだよりをお送りします。去る 3 月 17 日(日)に、これをテーマにした昨年度第 3 回目のフィールドレポーター交流会を開催しました。このときは、たまたまはしかけの方の交流会と合同で行うことになったのですが、その関係でお互いの活動に関して情報交換をすることができ、参加者も多く大変有意義な交流会になったと思います。

2001 年度第 2 回調査

「身近な鳥を調べよう」結果報告

今回の「身近な鳥を調べよう」では、最終的に 313 件の報告がありました。ただ、当初調査の締め切りを 11 月末としていたのですが、なかなか報告が集まらず、急遽 12 月末まで締め切りを延ばしたところ、比較的多くの報告が集まりました。また、報告を送っていただいた方が 34 名と、最近の調査としては報告数の割に参加者が少なかったことが今回の特徴でした。

まず、今回の調査を行うに当たって、フィールドレポーターとしてはこれまで鳥を対象にした調査はあまりなかったので、まずは鳥を見慣れてもらうところから始めようと言うことで、できるだけ見慣れた鳥について、できるだけ簡単な調査からということでフィールドレポータースタッフの皆さんと企画をしました。しかし、スタッフの方々も含め何人かの方から、近づくのが難しくて観察がしづらい、あるいは種類の判別が難しいなどの意見が出ていました。できるだけ簡単にとは思っていたのですが、やはり鳥はこれまで調査を行ってきた生き物とは、ちょっと違うようです。そのため、先のような結果になったのだろうと思います。また、実施した時期が夏の鳥から冬の鳥へと変わってゆく時期で、そのことも影響したのかもしれません。

とはいえ、鳥は多くの方が関心を持っておられるといますので、今後も折を見て調査を行ってゆきたいと考えています。

フイールドレポーター担当
桑原雅之

2001年度　第二回フィールドレポーター調査「身近な鳥を調べよう」について

フィールドレポーター　尾形

当初調査期間を9月から11月末としましたが、カイツブリ、カワウ、サギ、などの活動時期からみて、11月末締めでは早過ぎるのではと再考して12月末としました。

お陰で皆さんからのレポート数も予想以上に多数お寄せ頂き総数313通になりました。これらの資料を収録分析などいたしまして去る3月17日(日曜)に2001年度第三回の交流会を開催いたしました。

I、観察内容を鳥種のうちより詳しく調べられた、鳥の習性などについての津用さん、前田さんの興味深いお話等

Ⅱ、博物館の亀田さんには今回の調査にあたり、調査項目設定から各種鳥の参考記事、挿絵、観察時の注意事項など、前もってご案内頂いており大変参考にさせて頂きました。また、交流会の締めくくりの総評をお願いいたしまして、盛会うちに終了できました。

Ⅲ、私の調べましたレポートの集計からは、別表(円図)にもあります通り

1．　観察環境:

調査が多かった順にいきますと、川、溜め池、田んぼ、湖岸集落、水路畑、住宅地、林、草原、湖沖、となっています。

2．　見つけた鳥の数と種:

総数324羽。サギ類が最も多く計168、カイツブリとカワウ計81、カラスは計75。

3．　水辺環境(川、ため池、湖岸、湖沖、ダムなど)でみられた種:

サギ類(アオサギ44、コサギ33、ダイサギ24、ゴイサギ5)計106羽でサギ類全部の63%。

カイツブリ(47)、カワウ(28)計75羽で両種の93%。

*これらに比べてカラメは両種で21羽で27%しか見られないのは、一日のおおかたを陸地(田や畑森など)ですごしているためと言えるでしょう。

4．　発見時にいた鳥の数

①1羽　　：113件。アオサギが最も多く40件コサギが21件、ダイサギが17件とサギ類が多い。

②2羽　　：71件。カイツブリが最も多く23件、ほかはいずれも10件以下。

③3〜5羽：52件。カイツブリの12件が最も多く、あとは10件以下。

④6〜10羽：31件。カワウ9件、あとは3〜5件。

⑤10羽以上：40件。カラス類やカワウなどは100羽を超える場合があり、大群が時に見られたとの報告もあります。

5．　判別した特徴

体の(大きさ、形、色、)嘴(色、形、)などが、主として判断のもととなっています。カラスだけはそれが難しいところです。集計で、大きさが 228 件、体色が 221 件、形が、183 件、嘴が 72 件です。

6．　鳥の行動について

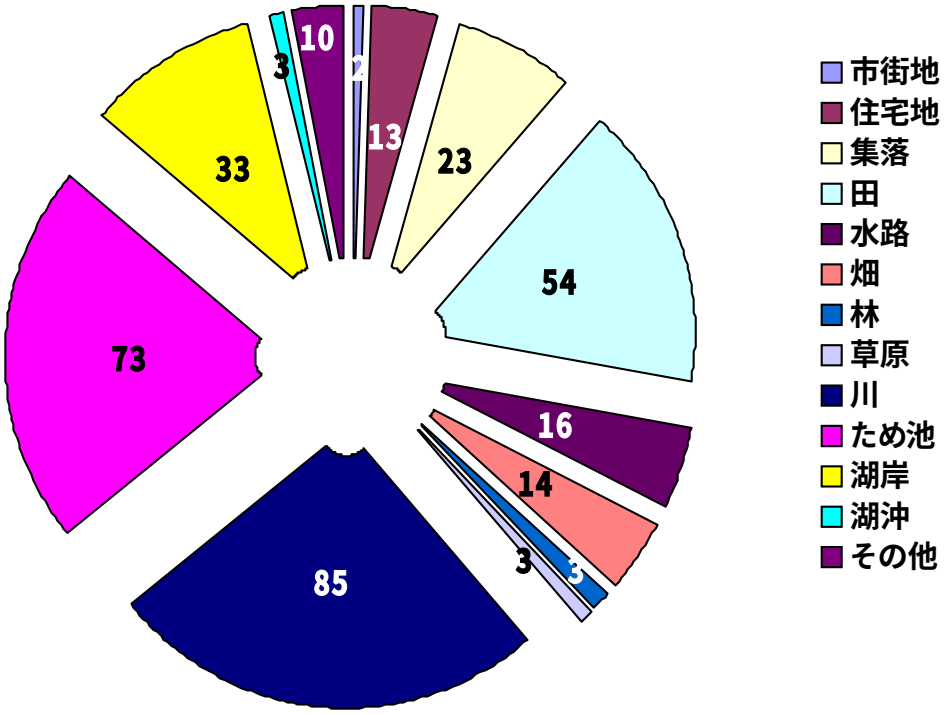
水辺での観察が多いので、やはり水面に浮かんでいるか、潜っているか、浅瀬の砂地などに立っているかなどありました。首を突っ込んでいる時、餌採り、水飲み、水、浴び、羽づくろいなどは判断の難しいところです。

集計で、餌とりが 108 件、立つ(水、陸地計)90 件、飛行 77 件、止まる 75 件、浮く 56 件、歩く 46 件となりました。

Ⅳ、調査時に気づいたこと、この種にまつわること、知っていること、感じたことの項目では、大変珍しい体験や、鳥と人間とのふれあいが感じられ、大変興味深いものでした。今回の調査により、大切な自然が広く存在し、日々の我々の暮らしにどれほど深い憩、いとやすらぎを与えてくれているかをあらためて認識させられると同時に、自然の美しさがこんなに素晴らしいものだと再認識させられました。

身近な鳥の調査（１）（平成 13 年 9 月～12 月）

環境で見つけた鳥の種類

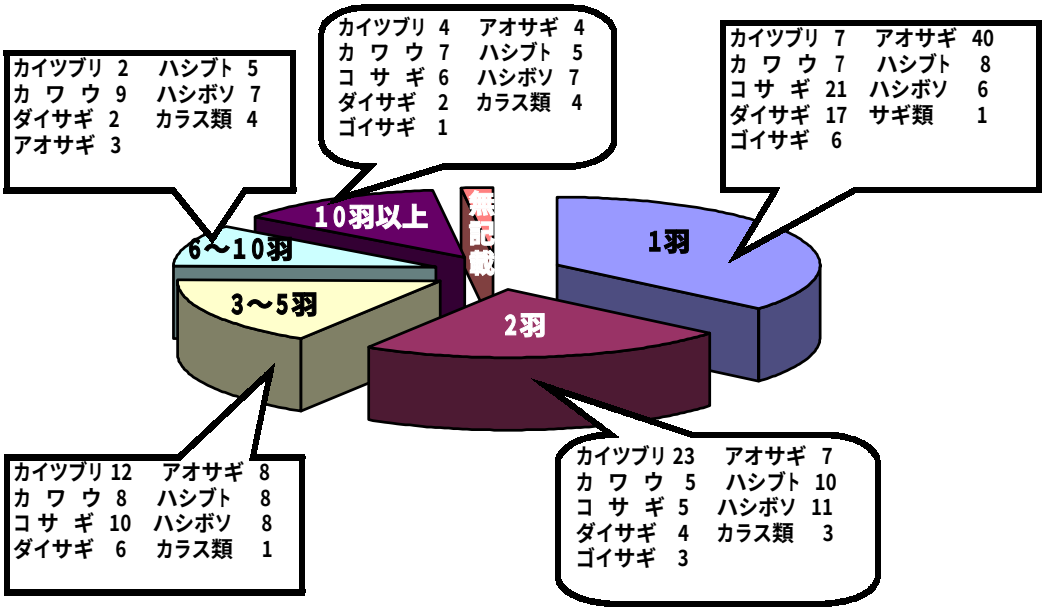


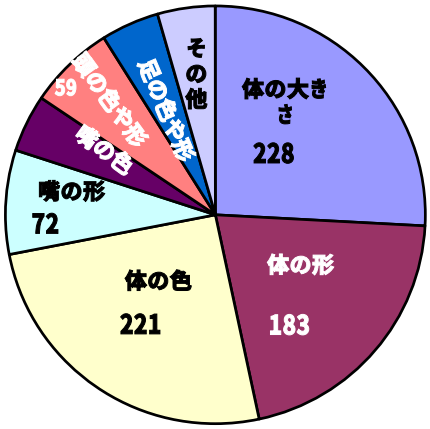
観　察　環　境

	市街地	住宅地	集落	田	水路	畑	林	草原	川	ため池	湖岸	湖沖	その他（ダム等）
カイツブリ	1								16	20	9	1	1
カワウ		1	4					1	9	7	8	1	3
コサギ		2	1	10	3	2			18	11	2		2
ダイサギ				7	4	1			12	7	4	1	
ゴイサギ		2	1	2					1	2	2		
アオサギ		2	1	13	5	3			20	16	6		2
サギ類				1									
ハシブト		1	13	4	1	3	3		3	3			1
ハシボソ	1	5	3	11	2	5		2	6	5	2		1
カラス類				6	1					2			
合計	2	13	23	54	16	14	3	3	85	73	33	3	10

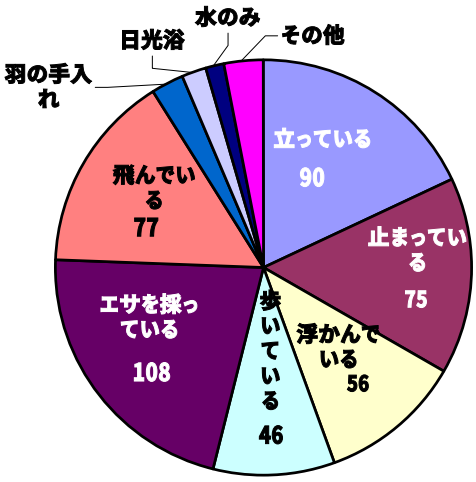
身近な鳥の調査（２）（平成 13 年 9 月～12 月）

発見時の鳥種とその数

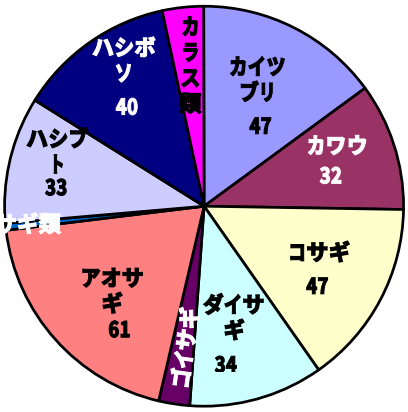




判断した特長



鳥の行動



鳥別レポート数

身近な鳥を調べてみようの調査結果から

津田国史

みなさんに調べていただいた、水辺の鳥についての調査結果から、私が感じた事柄をお知らせします。最初にこれは、2001.9.18～12-29 までの問、滋賀県の 313 地点で見かけた鳥であること、調査地点が滋賀県全域でなく、空自となった地域もあることをお断りしておきます。

空白地域は、F.R の不在地域と照応し、鳥が多く見られた地域は熱心な F.R の在住と見事に照応するという結果がみられ、これは今後の各種の調査に大きな教訓を与えてくれました。(図 1 報告のあった地点)

水鳥は水辺にその名のとおり、水鳥は水辺で多く見られ、田んぼの水路で見られた(No.298)カイツブリもあり、水があれば山間の池などに住み着いているのではと思われ、一番多く見られた所がため池のカイツブリであることによく表れていると思いました。このカイツブリの 21 件という数は今回の調査のため池で見つけた鳥の最多でもあり、琵琶湖よりため池で見たというのが多かつたのが新鮮でした。

カワウを住宅地で見たというのもあり、ほう!と思いましたが(No.3,229)いずれも水の中ではなくて天空を泳いでいました。市街地と集落もそれぞれ 1 件ありましだが、やはり上を向いての観察でした。(No.271、109)ここで不思議なのは、カワウの大群がネグラからエサ場へ、またその逆もあるはずなのに、観察の対象になっていないことです。

これは、彼らの移動時間と、われわれ F.R の観察時間にタイムラグがあるのではなかろうかと思ったのですが、どうもそれではなさそうで、原因は、見られる地域が限定され、(No.23、225、303)彼らの通りみちに居合わせなければ、大群には出会えないのだ、それは湖岸か、河口かなと、思っています。

サギの中では、アオサギが群を抜いて多く、61 件と最多数です。識別しやすい鳥でもあり見まちがえることなく同定されたようです。少し気になるのは、湖西の地域の今津から志賀町の蓬莱あたりにかけて、サギの報告がダイサギ 1 件のみということです。もともと F.R の少ないこともあり、これは見るひとが居なかったとみればいいのでしょうか。

同じサギ仲間でもゴイサギは極端に少なく(8 件)なぜ?と考えさせられました。とくに、彦根からマキノまでの湖北地域からの報告が全く見られないことや、高島から大津もそうですし、湖南に集中的に多い報告のわりには、湖南からもゴイサギの報告の少ないことが気になりました。

サギは川やため池で見かけたというのが多いのですが、ゴイサギは川でも 1 件のみです、アオサギは田んぼで見たという鳥のトップです(12 件)。ついでに川で見つけたと報告の多かったのは、コサギとアオサギのそれぞれ 19 件でした。

ゴイサギを湖北で見つけたという報告(No.266)で興味をおぼえたのは、それが雨の日であったことです。ゴイサギはもしや雨の日に現れるのではと、報告の中で雨の日を探してみました。

残念ながら他の 7 件は晴れ 5 件、曇り 2 件で雨はこの 1 件だけでした。

それで、雨の日に観察された貴重な報告を探しました、(No.94、95、108、270、266)の5件でした。ほとんどが晴れか曇りの目で、鳥も晴れの目が好きなのか、それとも F.R が晴れの日にしか出かけないからなのか、これはわかりませんでした。

雨の日に観察して貴重なデターを頂いた方々にお礼をもうしあげます、とくにミゾレの日に観察して下さった No.270 さんご苦労さまでした。

天侯と鳥の活動とになにかの関係があるのかを今回の調査から探ってみましたら、おおざっぱな感じですが、水辺の鳥は晴れの目がお好きで、雨は嫌、カラスは曇りでもあまり気にしないで田んぼにお出かけという図式が浮かんできました。でもこれは、さきほどの F.R の心情、行動に同調しているからなのではと、教えられているように思えてなりませんでした。

最初にも触れましたが、調査地域に偏りがあることで、今回の調査は次のステヅプへの足慣らし、または巣立ちへの羽ばたき初めと考えています。

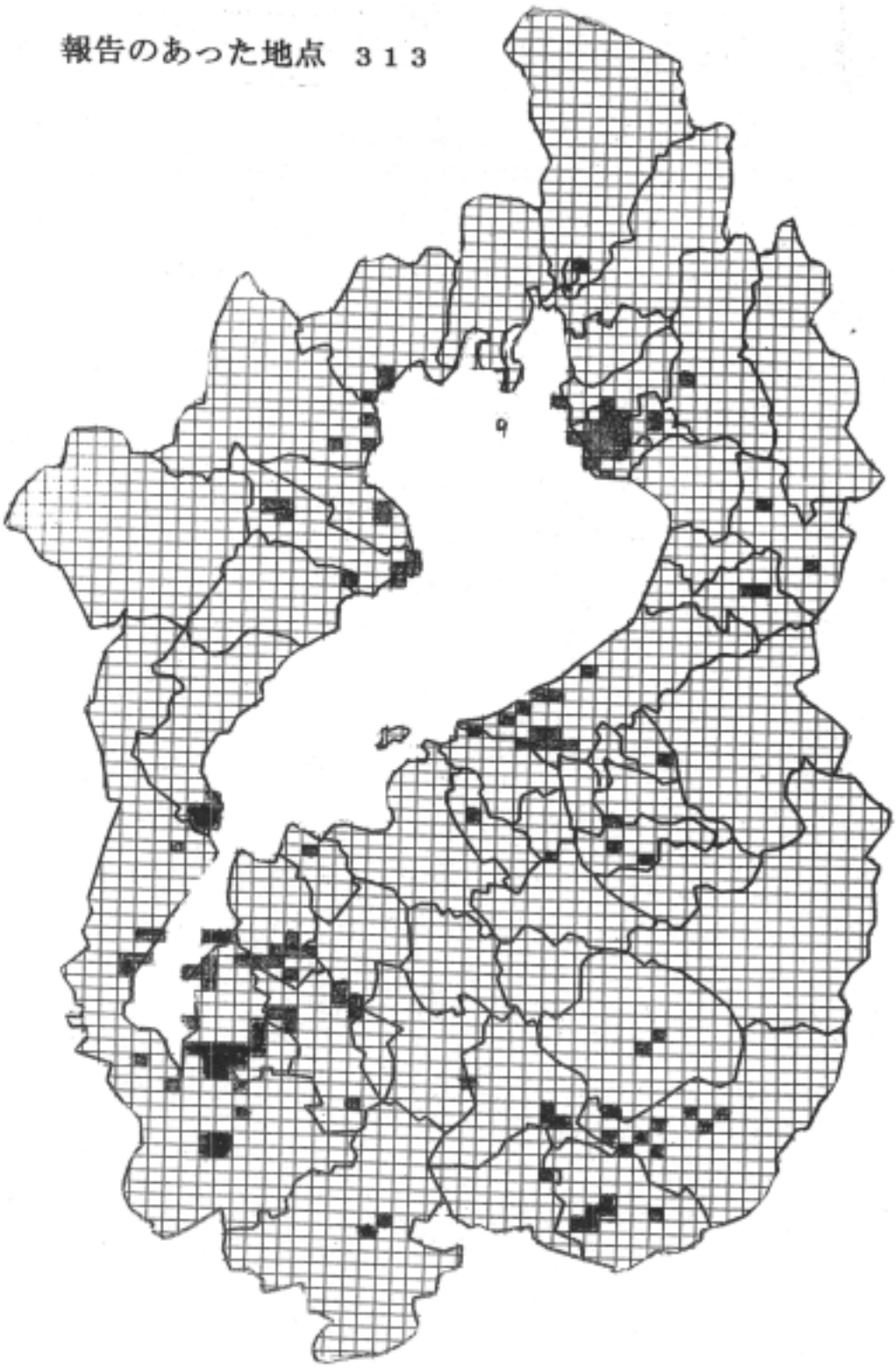
鳥を見かけたところが、F.R の在住地域と見事に関連しているということは、今回の調査対象である鳥は、人に見られることなく滋賀県の各地に生息している可能性を秘めていると思いました。

そのもっとも顕著な例が、湖南の草津から瀬田、大津の南東部にかけての地域です。
この地域にため池の密度が高いことと、F.R の密度も県下で一番ということもあって調査対象のどの鳥も多く見かけられています。ただ少し不思議なのは、大津の酉部にもため池がかなりあるのに、ここからは報告がなかったことです。それと、湖岸で見っけたカイツブリの以外に少なかったことです。

滋賀県の県鳥であるカイツブリは滋賀県を象徴する琵琶湖で、もっとも多く見かけられるものとの思いがありましたので、これは新しい発見でした。そしてカイツブリについて実はなにも知ってはいなかったのだ、との思いを知らされた今回の調査でした。

*　F.R：フイールドレポーター

報告のあった地点　３１３



カラスを知ればおもしろい

前　田　雅　子

カラスの報告はハシブトガラス 33 件、ハシボソガラス 40 件、「カラスであるがどちらか分からない」が 10 件でした。

ハシブトガラスは濁った声で「ガァーガァー」と鳴くこともあるので、鳴き声だけで判断することは難しいそうです。博物館の亀田さんから、「鳴き声や外見上の特徴だけでなく、この時期に、この場所で、こんなことをしているからと、総合的に判断することが大切」と、教えていただきました。

では、秋から初冬にかけてカラスはどこで何をしていたか、皆さんの報告で探ってみましょう。

1.　どんな場所(環境)にいたか

見　ら　れ　た　環　境

	報告数	市街費	住宅地	集落	田	水路	畑	林	草原	川	池	湖岸	湖沖	その他
ハソフトカラス	33 件	0	1 3%	13 39%	4 12%	0	3 9%	3 9%	1 3%	4 12%	3 9%	0	0	1 3%
ハソホソカラス	40 件	1 2%	5 13%	6 15%	11 28%	0	4 10%	0	2 5%	5 13%	4 10%	2 5%	0	0
カラスのどれか	10 件	0	2	0	6	0	0	0	0	0	2	0	0	0

やはりカラスほ、どこでも見られる身近な鳥でした。今回の調査では市街地～集落～田畑～林～川～湖岸までの幅広い環境に見られています。環境適応能力に優れた鳥ということができるでしょう。けれどもハシブトガラスとハシボソガラスを比べると、生息環境に多少の違いがあるようです。

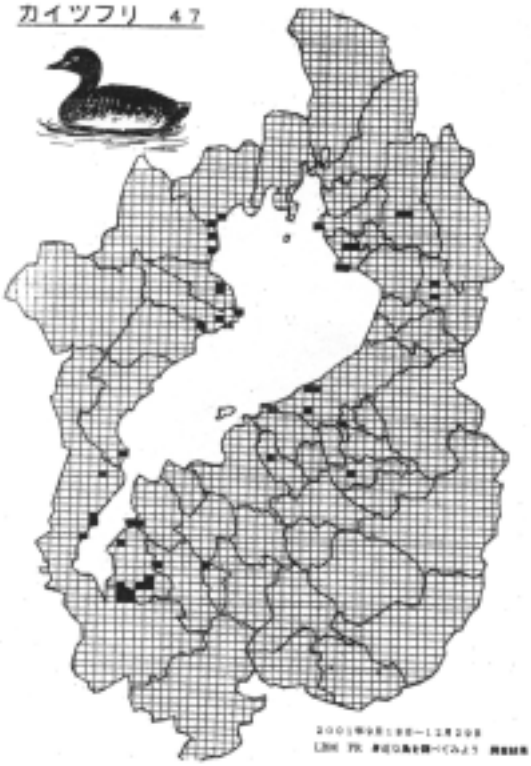
ハシブトガラスが一番多く見られたのは集落で(39%)、次に田畑(合わせて 21%)、そして川、林、池でした。この中で、ハシボソガラスの報告のない「林」に、ハシブトガラスが見られたのは注目されます。英名を jungle crow(ジャングルのカラス)というハシブトガラスは木が茂った環境を好み、集落や田畑に餌を探しに来ているようです。

一方、ハシボソガラスが一番多かったのは田畑(合わせて 38%)です。落ち穂をついばんだり、耕したところに降りてきて餌を採ったり、電柱や樹上に止まっていました。集落、住宅地、川、湖岸などあちこちで見られますが、ハシボソガラスはどちらかというと見通しの良い、開けた場所にいると言えそうです。

このように種(しゅ)によって好む環境があるものの、2 種が一緒に見られることも少なくないようです。今回の調査では 6 地点で混在が見られ、「2 種が仲良く止まっていた」と書かれた報告もありました。よく見たら両方いたということが案外あるかもしれません。

ところで、全 83 件のうち 20 件は川、池、湖岸のいわゆる水辺で見られています。水辺がカラスにとって大事な生活圏であることがわかります。次に、カラスの行動について見てみましょう。

カイツブリ 47



カワウ 32

アオサギ 61

ゴイサギ 8

2.何をしていたか

【水辺で】

川や池で、水を飲む(1 件)・水浴び羽づくろい(3 件)の報告がありました。特に水浴びと羽づくろいはセットで観察されていて、水浴び後に、羽に脂をつけていたと思われます。(詳しくは報告 No.162、171、82 をお読み下さい)また、水辺での採餌は 8 件ありました。(No.101・119)

【エサをとる】

ご存じのようにカラスは雑食性です。植物食では「シュロの実を食べていた」(No.38)、「柿を食べていた」(No.H3、86)、「麦地で採餌」(No.150)のように果実、穀物、木の実などを食べますが、「畑の作物も大好き」(No.6 他)です。動物食は「耕した周辺を餌を採りながら歩く」(No.147 他)に代表されるように、土の中の小さな虫などを食べることが多いようです。けれども「ツバメの巣が襲われた」(No. 43)、「子ダヌキの死体をつついていた」(No.24)とあるように、積極的にハンティングしたり、死肉や腐肉を食べたりします。さらに「水鳥の餌を取りに来る」(No.101)、「お墓の供物を取る」(No. 40、107)、「猫と餌を取り合う」(No.151)、「生ゴミをつつく」(No.291 他)など、カラスの強さと賢さを示す報告がたくさんありました。

ちょっと変わったところでは、「水のある田に入り、サギのように餌を採る」(No.207)というのがありました。ハシボソガラスは、浅い所なら水に入るようです。

【木や電柱に止まる】

集落の木や屋根、電柱や電線、川岸の木、街ではビルのアンテナや看板にも止まっていました。そこが安全な場所であると同時に、見張ったり探したりするのに都合が良いのでしょう。止まっているように見えても、じつは餌を食べていたり、生ゴミを狙っているという報告もありました (No.7、50、292、107)

【ねぐら入り】

夕方にカラスの大群が空を舞っているようすを、詳しく観察されています(No.201)。昼間それぞれの縄張りで過ごしたカラスたちが、集団ねぐら(数百羽、数千羽が一ヶ所に集まり、樹の枝に止まって眠ります)に帰ってきた時のデモンストレーションのようです。

【トピックス】

○ハシボソガラスが鳴く様子を観察されています(No.302)。「ガ」の時に頭が下で、「ア」の時に上がるそうです。ハシブトガラスはどうなのでしょう?

○カラスが火のついた薪をくわえて飛び回ったそうです(No.223)。火を恐れないのでしょうか。

○カラスが腕時計に固執したと書かれていました(No.202)。わけのわからないものを集めて隠す習性は他の動物でも見られますね。カラスは食べ物を隠す「貯食行動」があります。

3.集団はどれくらい?

1ヶ所　に　い　た　数

	1 羽	2 羽	3～5 羽	6～9 羽	10 羽以上
ハシブトガラス	9 件	10 件	3 件	5 件	5 件(15,30,40,50,100 以上)
ハシボソガラス	6 件	11 件	9 件	6 件	7 件(13,20,30,52,124,100～440～)
カラスのどれか	0 件	3 件	1 件	2 件	4 件(20～25.40.60、数百)

観察によると 2 羽でいたのが一番多いものの、単独や小グループも同じようによく見られています。2 羽は夫婦あるいは親子かも知れません。グループは友達?行動をじっくり観察して、想像を働かせると面白そうです。(残念ながら、カラスの雌雄は外見で区別できません)

集団の最高値は数百羽で、彦根市の水閏地区の電線に「メジロ押しに並んでいた」(No.228)そうです。野洲町三上では、稲刈り後の田で 100 羽以上が餌を採っていたのが観察されています(No.10)。どちらかというと朝夕に集団が大きいようですが、昼間でも数十羽まとまっているのが見られます。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(カイツブリ編-1)

受付No	*	
2	A	声は聞こえたが姿は確認できなかった。例年たくさん泳いでいるのを見ているので、多分何羽かはいると思われる。
11	A	川の流れの中央部には出てこないで、岸近くのヨシ原の近くにいる
27	A	10月中旬から小型のカモ類が渡って来て、湖岸ではカイッブリとの区別がつきにくくなってきました。
30	A	時期によって数は変わります。昨春は 10 羽以上群れになっていましたが、この頃は二羽程ときには一羽でいます。
44	A	近付くと潜ってしまい、いつまで経っても潜って出て来ないので周囲を見ると、20～30m向こうで泳いでいるのが見つかった。人を敬遺しているのか、エサ取りのためか、どれぐらいの距離を一回で潜るのか機会があればじっくりと観察してみたい
53	A	小アユなど小魚が少なくなるにつれ、かける;とが少なくなった
58	A	5羽のグループ
65	A	この二羽はつがいかと思はれる。同じ様に動き回っている。潜る時も、泳ぐ時も、離れ過ぎずにまことに微笑ましく、かわいらしいものです。
67	A	池の中央に弁天様を祀った祠のある小さな竈があり、そこに鳥がいるのをよく見かける。木の奥など見えにくいところに、もっとたくさんいたかもしれない。以前見た時には、カイツブリがもっとたくさん泳いでいたように思う。
91	A	遠<から見たので太陽光線の具合か、水面との区別がつきにくく、もっとた<さんいたのを見落としているかもしれない。
92	A	毎目は通らないが、通った時には必ずられる。
95	A	杉本池は水草特にヒシがよく繁茂し水面が少ない。今の時期になると水草は枯れ水面が広くなり水鳥がやってくるカイツブリ、バンなどが繁殖している。
96	A	西池はハスでいっぱいになりかけているので、ハスの繁茂を防ぐ対策必要。8Gの艇庫があり、現在全く使用されていませんので撤去されたい。建設に反対してきた過去もあり、県への要望讐も出していましたが、思った通り全く使用されなくなった
105	A	三島池の野鳥調査については三島池ビジターセンターに年間の記があります。
121	A	数十メートルづつ離れて、潜ったり、水面を移動したりしていた。潜水は15秒から30秒位。10センチ弱の魚をくわえて浮かび、魚がはねるのを止めた頃、飲み込んだ。漕って、浮上した位置まで長くて20m。魚をくわえていた時は5m位。今目は水面に出て魚をたべるところを見たけれども、水中でも食べているのかな?
132	A	池にはカイツブリ1羽だけがいました。潜ることもなく、水面を泳いでいるだけでした。この池には魚はたくさんいますが、お腹がいっぱいだったのでしょうか。
133	A	岸近くにいるたくさんのカモにまじって、カイツブリカ3羽、ひっきりなしに潜っていました。遠くの方を白サギ(ダイサギらしい)が飛んでいます。人が近づくと鳥達はスーツと遠ざかっていきます。
138	A	よくもぐる。2羽はつがいのようで、親子のようで、よくわからない。近所の人の酷では;の2羽だけがここにずっといるらしいから、おそらくつがいだろう。池は大きさ的には十分だが岸が急なコンクリばかりで、ヨシ帯の面積が少なく、また水中にすむ魚にもバスがいるらしいことから、あまり住みやすいとことは言えず、仲聞がふえないのかもしれない。ヒナも近くの林に住むキツネにやられている可甫性がある。
154	A	他にもたくさんのカモたちが泳いでいた。養魚池の看板有り。道路をはさんで南にある中池にはカイツブリは見られず、カモがられただけ、さらに南にある上池には、バンとカモ類のみ。
155	A	他にも数多くのカモ類が見られた。京滋バイパス沿いのマンションの裏手に、こんなにたくさんの水鳴がいるのに鴛いた
177	A	コガモ、マガモ、ハシビロガモ、などもいた。南隣の上酢子池は埋め立てらていた、周囲は田畑で静かな環境。
198	A	たいてい2羽で行動している。いつ見てもかわいい
200	A	輪を描いて泳いでいた。新しい貯水池の少し奥に、古くから、ため池があり、そちらから移動したのかもしれない。昨年はいなかった。水も少なかった。
209	A	1ヶ月以上かかってカイツブリと判断しました。以前から水鳥は確認していましたが、①すぐに潜って姿をかくしてしまう②全然飛び立たない(何かのひな鴉かと思った)③普通の褐色、赤っぽい、黄色っぽいフサフサ毛の存在、さらに県鳥なのに私がカイツブリを知らなかったこと大きい問題。
212	A	水に潜って逃げていくのですが、足がつかえる程水深が浅く姿がまる見え。見慣れない鳥でしかも逃げないので、ひな鳥かと思っていました。
216	A	カモ類が多く見わけ難い。小ハク鳥やオオヒシクイ、多<のカモ類の中できわめて、カイツブリが減っていることを感じる。カンリカイツブリ観でき激した。
224	A	文禄川は底が浅い為、カイツブリの泳ぐ、水中の子が真上から見られます。

* : A=調査で気づいたこと B:この種類にまつわること、知っていること、感じたこと

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(カイツブリ編-2)

受付 No		
239	A	カモ類が飛来している為に少ない。いつもは 15 羽程見られる。上流及び河口に移動しているものと思われます。
250	A	ここのカイツリのヒナは育つまでの歩留まりが非常に悪い。平均親一羽にヒナ 1～2 羽になってしまう。浮き巣を壊すもの、ヒナを水中に引き込むものがいる。多分オオクチバスと思います。
259	A	岸から約 50m 以内カウント
286	A	7 羽～10 羽、群れを組んで(たて一列　よこ一列等々)泳いでいた。午前中、特に朝方によくみかけます。(ヨシ群のあるところで)
29	B	カイツブリはずい分増えたと思います。この調査報告以外にいつもいるが見られました。①マキノ町知内本の川(さんまいのとなり)②あど川町南舟木はずれの水門近く③あど川町今在家松ノ木内湖へ流れこむ川④安１川町下小川の田回を南北に流れる川⑤安１川町近江白浜水泳場近くの用水路⑥新旭町太田の東側のびわ湖に流れこむ用水路⑦新旭町藁園の湖岸石垣堤の渚にカンムリカイツブリ１羽
30	B	琵琶湖が面饒猟になる以前ですが、年配の漁師がこの鳥を捕まえてきてさばいていました。腹に刃物を入れて一直線に引き両方に開いて羽毛のついた皮と筋肉、内臓の身を分けていました。丁度を服を脱がすようで「へえ」と言う感じで見ていました。あの頃に比べるとカイツブリはずい分増えたように思います。
44	B	ときどきしか行かないが、行く度に見られるので毎日見られると解釈いました。
121	B	水面を移動する時、すれすれに 15m くらい、飛びながら着水した。「鳩の俳句」……①うき巣見て事足りぬれば漕ぎかへる高浜虚子②縁の下或る夜は浮巣寄りにけり下村挽太③つつがなく浮巣に卵ならびおり阿波野青畝④堅田の僧親しき浮巣の話など金子篤子⑤鳩の巣を揺るさざなみも近江かな安住敦⑥さみだれや鳩の浮巣を見にゆかむ芭蕉①～⑤)「入門歳時記(角川小辞典=30)より
132	B	初め、カモの幼鳥がはぐれているのだろうかと思いました。後目、博物館の桑原さんに、カイツブリは「丸くて小さい」と教えていただき、展示?のカイツブリを見てビックリ。冬は内側の毛をふくらませて丸々としているのですね。夏はあんなにスリムなのに。それから 12 月 7 目まで 5 回ほど行ってみましたが、あれ以来１度もカイツブリに出会えないのです。池がいりくんでいる上に、水際の木やヨシにじゃまされて見えないのかもしれません。
138	B	この池には他にゴイサギ、カワセミなどを時々みかけるが、この日はいなかったので書きません。
200	B	水底を水かきのある足で、泳ぎ回っているのを見たが、浮かんでいる時とは、はるかに活動的だった。水面では休んでいるのかな?
224	B	この辺りの川や沼には必ず見られます。愛知川、宇曽川、曽根沼緑地公園、琵琶湖、荒神山南側の下の水路ではほぼ必ず見られます。
295	B	今回の調査対象は、私の住居周辺のみで考えれば、カラスやサギに限られてしまうし、広範囲で考えればいくらでも調査報告ができるものである。その点、調査する方の負担も大きかったように思える。また人により、バラツキがかなり出るだろうし、もう少し対象を絞り込んでもよかったではないか。今回私は友人とカイツブリ中心に探してみたところ、あちこちで見られることがわかり、意義があったと思います。

＊：A=調査で気づいたこと B:この種類にまつわること、知っていること、感じたこと

・

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(カワウ編)

受付No		
3	A	夕方、同方向に飛んで行くカワウの集団を時々見かけるが、どこから飛んで来るのか、なんとか調べてみたい。桜ケ丘から南東の方向へ探しに行ってみよう(短絡的でしょうか?)
23	A	数えきれない位の数カ浅瀬や砂州にいました。
48	A	灯台先端の竜球の所に止まり、明け方の湖面を凝視していて、5 分程して突如沖の方、エリの仕掛けに向って飛行した。
52	A	5～6 月よりグループが小さ<なり活発性カない。(2001・5・09)に数千羽とも思われる群で、竹生島南沖で餌をとっていた。又、竹生身では、枯木のてっぺんに巣を作り卵を温めている親鳥は、ヘリコプターの爆音も、銃声も、人にも全<たじろがなかった。
59	A	地図と説日文あり
109	A	頭上近くを通過。池から田川にそって琵琶方面へ
116	A	大きなヘラブナを捕まえた時、翼で、水面をたたいて、水しぶきを上げて呑み込んだ。潜水から、飛翔し、旋回していた、機械の及ばぬ性能に驚いた。
129	A	水面を泳いでいたが、ローでつないだブイの上にあがって、水気をはじき、羽をひろげて、しばら<干していた。5 分ほどして、下流へ飛びさった。上を 1 回旋回した。
134	A	住宅地(ペルパーク)に隣接する池で、南はスギ林があります。大きな鳥が池の上を 2～3 回旋回してから水面に降りてきました。カモ類がいるすぐそばでした。何をするのだろうと見ていると、泳ぎながら毛づくろいをし、1 分後にすぐに飛び去っていきました。”ちょっと休憩"だったようです。
141	A	餌が少なくなったため､夏場の 1/10 に減少している。
160	A	岸をコンクリートブロックでかためてあるのに、たくさんのゥモ類がいた。以前桜ケ丘北口上空を飛んでいたカワウの群れはこの群れか?時聞のある時に追跡してみたい。
169	A	以前夕方 4：00 頃に調べに来たことがあるが、その時とは様子がだいぶ違い、静かだった。
191	A	かなり広い池で､岸や水の上にたくさんの水鳥がいた。カワウは池の中央付近で泳いだり、餌をとったりしていた。他のカモ類と混じって泳いでいた。
225	A	たまたま大群が飛来した時に当たったと思います。11 月 2 目にはカワウが 930 には 42 羽いましたが、11 時ごろには 1 羽も見られませんでした(2～3 羽は上空に)
229	A	上空を通過
260	A	岸から 50m 以内をカウント
299	A	湖中の取水塔らしきもの止まっている。
303	A	100 羽以上の大集団が浜街道から湖岸にかけて旋回しており 10 分間程みとれていた。
19	B	琵琶湖岸はともかく、平野部ではあまり見かけないので、黒い姿はカラスかなと思うことがよくあります。でも水鳥なので泳ぎや漕水は上手です。
23	B	20 年位前に湖岸の石垣の上で冬の陽に羽を干しているのを見た時は珍しい鳥が来ていると恩いましたが、7～8 年前に数百の数のカワウを見た時は異様に感じました。これだけの数が琵琶湖の魚を捕食したら大変なことになると恩いました。漁師に言わせると、こんな「悪」はいないと…。「飛ぶ、潜る、泳ぐと三拍子揃って大食漢の上、一度腹に入れたのを吐き出す、エリのツボに迷い込んだら稚魚がダメになってしまう、捕まえようとすると鋭いクチバシで抵抗する」と。平成 7 年に今津浜で撮った写真を同封します。
49	B	カワウが減少傾向が見られるとのお話がありましたが、10 月末(10 月 25 日)事実私が志賀和邇浜から北部安曇川、新旭、今津、マキノサマービーチ、大崎と回って見ましたが、大崎でたった 2 匹突堤の先にいるのを見ただけです。
84	B	川を上流に向かって飛んでいるのをよく見る。自分の好きな鳥です。
116	B	ダム湖は、満水時の 1/5 位の面積にのみ、水が残っていたが、よ<潜り、よ<食べ、よく飛んで(旋回)また、着水していた。旋回は安全の確認らしく、小生のすぐ近<を通過していった。ヘラブナと格闘して、のみこんでしまった。
129	B	着水したり水面から飛び立ったりもちろんもぐったり素晴らしい備えているのが分かる。
134	B	カワウカ 1 匹で行動するのはめらしいと思いました。琵琶湖岸から 3km 内陸に入った所で、ため池が散在するのでカワウの活動圏ではあると思います。でもこんな住宅地に来るというのは、あまり人を恐れないということなのでしょう。
225	B	採餌は大群では場所を転々と変え、少類(ママ)の群は場所を定めて毎目通って来るように思いま。個体識別や脚環や着色で調べられないか?
229	B	1 愛知川、字曽川で多数、目根沼緑地公では 2～5 羽が常時見られる。2 曽根沼緑地公園では長年上空を通過するだけだったものが、ここ 2～3 年は着水、採餌するようになった。3、サギ類に比べカワウは魚の捕獲成功の回数が格段に高<見え、一群の個体教も多い。飛来着水する場所が一定しないのは大量の魚を食べつくす為､移動する必要があるのではないか｡1～2 羽しか見掛けない場所では、いつでも見られるように思われる。
258	B	カワウと信じているが確証はない。もしウミウが混ざっていて多分わからない。空水面も埋めつく程の大群に出合うこともあるが､大群は同じ場所に定期的に現れることはな<､位置を変えて行動している様に思われる。他の鳥と異なる習性か。
299	B	泳いでいる時はあまり感じないが、カワウは、体が大きく、全体に黒くまとまって止まっているとあまり気持ちのよいものではない。また、羽数のわりに、数多くいるように目立って見える。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(コサギ編)

受付No		
13	A	はっきりコサギと断言出来ないが、見本絵を見て判断した。昼寝でもしているようにじっと浮かんでいた1時間程して飛び廻った。
21	A	竹林に止まっている
31	A	遡上の鮎を狙ってヤナ場に横一列に並んでいたが、遡上する鮎もずい分数が減っています。コサギもこれから餌をとのが大変だと黒います。
34	A	ヤナ場を中心に流れの中にダイサギ、ユリカモメと混在していました。ざっと数えて55羽、それ以上いたかも知れませんが、ダイサギに比べてコサギが圧倒的に多かったです。
51	A	静かに立っている姿は、人の気持ちを安堵させてくれる。
57	A	地図と説明文あり(三ヶ所で発したコサギすべて同一?)
62	A	川幅2m弱、水深10m〈らいのゆるやかな流れの水路です。エサを探しているようでしたが、近づいた為、あわてて飛び去っていきました。魚も特にいる様子はありませんでしたが….。
93	A	この近辺で、コサギが建物の上(のアンテナ)に止まっているのは見たことがなかったので目についた。川や田んぼではよく見かけるのだが、移動の途中と思われる。
103	A	コサギ…夏多く冬少ない。夏は夕方ねぐらとして樹木を利用している。アマサギ…夏～初秋　頭の朱色がなくなってから10羽くらいの群でやってくる。ダイサキ.…周年1～2羽。アオサギ…周年2～3羽。テリトリー意識が強い
118	A	2羽つれだって飛び立ち、またもとの水辺へ降りた。
139	A	じっと水面を見つめているが、魚をとるしゅんかんは見られず、惜しい。
192	A	名神側の岸だけがコンクリートでなく、泥のままで、ここにサギ類が集まっていた。一部は日のよく当たっている北東側の崖で、日光浴をしているようだった。
199	A	のんびりあたりを見回し餌をとっているか、畑や田を耕すと、しっかり飛んでくる。
240	A	カモ類飛来の為、通常より少い。いつもは7羽程は見られる。この場所は日替わりメニュー的であり、ある時はほとんどオオバンばかり、又ある時はカワウ、今はカモの時期であり他の鳥は少ない。
273	A	トラクターで水田の耕起中であった。掘り起こされた後をついて歩き、餌をついぱんでいた。この風景はよく見られる。
305	A	耕運機の後について餌をとっていた
16	B	昔より夕暮れに、鳴き渡る。
31	B	私が小学生の低学年だった昭和20年代前半、上級生と雑木の密生した湖岸の松林に白さぎの巣を取りに行きました。10m 以上の高さの松ノ木のゆらゆら揺れる高い巣から落とす青い卵や巣立ち前の幼鳥をあみで受け取りました。私は小さかったのでとても松ノ木には登れなかったけれど今思うと昔の子供はずい分残酷なことをしていたと思います。
34	B	カメラ愛好家の間では知内浜の白鷺は全国的に有名で、私も浜で写真を撮っている人に聞いたところ、名古屋とか広島とか言っておられました。冬場には餌付けに慣れた白鷺がカメラマンから餌の小魚をもらってポーズをとっています。フラッシュの閃光も気にならない様子です。多分このコサギ達が知内浜へ行っていると思います(僅か数百mの距離ですから)(先目10月23目には10羽余りでしたが、日によって変動しているようです)
62	B	近くの川(余呉導水路)に、なんと7cmはあろうかと思われる大きなオタマジャクシが一面に群れていました。10月の末にオタマジャクシがいるのだろうかと思いますが、遠目にはオタマジャクシです。動きもそうです。そんなことがあるのでしょうか。
65	B	9月中旬に観察していた時に比べ、10月中ごろ過ぎからはサギ類が日を追って減少。この頃では2～3 羽見る程度、代りに冬鳥、カモ類がやって来て、カイツブリ等は一見区別がつかない。水にもぐるのを待つしかない。
106	B	田んぼを耕運したあとすぐ飛んで来て生きものを探している。
118	B	おとなしい優雅な存在として、目に映った。浅い所で、ついばんでいた。昨年、姉川河口のヤナ漁を見た時、アユをたべに集まっていたコサギ、ダイサギ、アオサギなどがアユを捕まえていた。みなで40～50羽いた。
139	B	11月に入ってしばらくすると、パタッとみかけなくなった。このあたりは標高が若干高く(200m以上)寒さがきつめなので、小規模の渡りをして川下の方へ行ったのではないかと思います。
152	B	縄張り意識が強く、川の中で、ギャツーと鳴き声をあげて、一匹が他を追い払っているのをよ<見かけます。夜の7時頃、その声をはじめて耳にした時は、大変に驚きました。
296	B	毎年9月アユが川を遡上する頃になると、数多くのサギが河口付近に集まってくる

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(ダイサギ編)

受付No.		
17	A	今の時期は、あまりいないが、春～夏の稲作付中はよく飛来する。
18	A	両岸に連なっている。姉川はエサとなる魚が豊富なので、ここを住みかとしているサギは多い。
26	A	カワウやコサギと共にいますが大きいのですぐ区別がつきます。
33	A	遡上の鮎を狙っているのでしょうか、沢山のコサギ、ユリカモメと一緒に水中に立っていました。コサギは55羽前後、ダイサギは5羽だけ、ユリカモメは数えませんでした。
45	A	耕うん機で畑を掘り返し作業中の状況でダイサギ1、カラス2が付近におりダイサギは歩いている感じ、ハシボソガラスはエサをとっていると見受けた。この用紙はダイサギを対象として記入しています。
46	A	このダイサギの群れの中に青サギも2羽交じっていて、暫く観察するも、争う様子はなかった。
56	A	餌を取る時、足元で素早く取る。姿は、スマートで大変美しく心から感嘆し、楽園のような美しい所に住んでいることに改めて、感謝する。
61	A	湖岸から400m沖を3羽のサギが水面すれすれに飛んでいました。からだを水面に対し45度に立て、ゆっくりと、しかも苦しそうに飛んでいます。魚を捕らえようとしているらしく、時折頭を水に突っ込み、からだを半分くらい沈みこませて3～5秒すると、大あわてではばたいて上昇しています。水草や藻などに立って、魚をねらっているのはよく見かけますが、カワウのようなハンティングするのを初めて見ました。10cm弱の魚をくわえていました。
81	A	この辺にはカモ類が常駐しているが、ダイサギをこの付近で発見したのは初めて。カイツブリを少し大き<してような鳥で数羽の群れを3ヶ所見つけたが名前が分からない(全体が黒い)
120	A	満水時の5分の1位の広さに水が残っていて、ダイサギ3羽、コサキ05羽、アオサギ7羽がいた。
122	A	流れていない入江に立っていた。小魚が数匹ダイサギの前方ではねていた。5分位すると50m位上流の浅瀬に移動した
144	A	いつ見ても口ばしの黄色が美しい。
146	A	耕迎機での冬耕中の田に舞い降りてきて、耕された田を盛んに突っついていました。耕運機が近づいても又、途中、側に下りてきた一羽のカラスにも動じることなく、田をつっついて約1時聞半いました。
197	A	静かな動作で非常に優雅である。くちばしの黄色が美しい。
219	A	浅井水中に立っている。
241	A	カモの飛来に押されて通常より少い。(遍常2～3羽)
256	A	ダイサギかチュウダイサギか不明。多分チュウダイサ(亜種)
287	A	30 分穫度の雨が上がった後にやってた。二羽いっしょに来たので同じ種類と思うが、くちばしと足の色が異なった。(くちばし:黄、足1黒)の個体と、(くちばし:灰、足:黄)の個体。餌はミミズの様なものやバッタの檬なものを食べていた。又、立っているときは片足で立っていた。
294	A	しばらくじっとしていたが、通りかかった車の音で飛んでしまった。
17	B	シラサギは、春はオタマジャクシを食べに水田へ入り、苗を踏みつけ、秋は、カエルやイナゴを食べに捕縄へドスンと着陸。稲を倒してしまうので農家の嫌れ者です。身近に見られるのは、これくらいですので、コロニーのある姉川、琵琶湖岸へ行ってみます
18	B	姉川下流はたくさんのサギがいますが、椙本さんのエリアと思いますので、深追いはやめます
45	B	今回の調査では、鳥をカメラに収めることを目的としていたのですが、どの鳥も(カワウはまだ見ていないので分からない)50m 以内での撮影は困難でした。殆んどとび立って行きます。デジカメでは無理なので、望遠レンズ300mmを使ったのですが結果はまだ分かりません。注意事項の鳥に近づきすぎない…….の距離でじっくり観寮はシンドイ。
83	B	こんなきれいな鳥、いつまでも地球にいてほしい。田に水がある時はいつも15羽ほどいるところがあるが、水がないとそこにはいなかった。
120	B	①くちばしが黄色で、時折、少し場所を飛んで、移動していた。浅瀬が多く、エサもある榛子だった。日野川ダムのヒドリガモはこの池との間を往復しているらしい。同じ位の数の群れが、ダムの方へ飛び去ったから。②この池の少し東に、もう一つ池があって、ブルーメの丘の敷地内なので、冬は人も少なく、マガモやヒドリガモなど20羽以上数えられた。しかしカイツブリは、いなかった。
146	B	時々首を伸ばして周囲を見る時の姿がとても美しく、うっとりする位です。周囲に振り回されることなく悠然たる様子にも感動しました。
219	B	調査票に詳細(ダイサギとチュウダイサギの説明が本によって異たるが…)
256	B	多数のコサギが採餌している場所には、大程1～2羽混ざっている。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(アオサギ編-1)

受付No.		
1	A	池全体にハスが群生しており、水面がよく見えない状況。アオサギが2羽舞い降りたのを目撃
5	A	夏の暑さにも負けずに、微動だにもせずに川の中をのぞく姿は、辛抱の鏡です。だけど、一日に何匹の獲物にありつけるのやら。それでもひたすら、じっと立っていますネ。
20	A	竹林に止まっている
28	A	一度にこんなに沢山青サギの飛んでいるのを初めて見ました。乱舞しているので正確に数えられませんでしたが40羽以上いました。
32	A	昔、内湖だった所を田圃に埋め立て、今では僅かの水たまりから湖に流れこむ数m幅の川が湖に注ぐ川口に小魚を狙っていた。
41	A	大山川の中の流れがよく見える川岸や、枯草の山の上によく見られます。川沿いに飛んでいたり、何羽かが点々と川の中にいるのも、川に沿って移動すると見られます。
47	A	同じ場所にダイサギの群れ23羽が休んでいた。暫く観察するも縄張り争いはしなかった。
54	A	長い足で歩く姿は悠然としていて美しい。
63	A	刈り取りの終わった田んぼをアオサギが歩いていました.土は硬く、昆虫を探している様子でもなく、ただ歩いたり立っているだけです。頭もあまり動かしていません。アオサギは水辺や湿地で見かけることが多いので、ちょっと驚きました。
64	A	アオサギ2羽が平行して飛んでいました。エサを探している感じではなく、移動しているように見えました。ねぐらからエサ場に行く途中だったのでしょうか。
117	A	200m位向うから、一度もはばたきをせずに水際に降りた。精巧なクライダーを思わせる。
123	A	水の中から出ている長さ1m高さ50cm位の岩の上に立って水面を見ていた。10分位、見ていたが、少し向き変えただけでずっと立っていた。
128	A	下流の方へゆっくり飛び去り、木の向うに消えた。
130	A	はばたいては、滑空して、ゆうゆうと上流の方へ飛び去った。
131	A	滝のように水が落ちている所へ舞い降りて来た。
136	A	一羽は<ぴを曲げて川の上空を横断して行った。もう一羽は、川岸に立ってじっとしていた。魚とかさがしているだろうか。
153	A	半分位干上がった池の水の中に立っていた。他の鳥の気配は全くなし。
158	A A	かわいた田の土をついばんでいるようだった。何の餌を食べているのだろうか、アオサギの中でも一段と大きく立派な個体、とても美しかった
159	A	池の岸のコンクリートの台の上に、首をすくめた状態でじっと立っていた、最初ゴイサギかと思ったが体の大きさから、アオサギとわかった。日は照っていたが、夕方なので、日光浴なのか眠っているのかよくわからない。
196	A	常に単独行動で見かける。餌を足元で取る。
220	A	長時聞水辺に立っている。鳥の行動の“水を飲んでいる"を確認出来るのは、小鳥ぐらいのものです。カラスでもあまり見たことがありません。水鳥では泳ぐ、採餌、水を飲むは見分けられません。
227	A	☆いつも20～50羽集まっている。広さ300坪ほど　☆以前は4～6羽/目だったのが、近年多くなった。地形、水路の関係で、見えない分を推すると、この倍程はいると思います。
231	A	上空通過
237	A	ほんの300坪程のところで、これだけの数が見られる。水路、枯れ草等の確認し難い場所があり実数はこの倍程と考えられる。
242	A	カモ類に追いやられて通常より少い。(通鴬3羽程度)
246	A	この時に限り、全ての種類の鳥が少なかった。カワウ、コサギ、ダイサギ、カイツブリ等はいつでも見られた。
272	A	写真をとろうとしてカメラを向けたところ、他岸の岸に飛び移動した。
5	B	平成7年7月の上旬は雨続きでした。巣立ちの日が悪かったのでしょうか。長雨で体が弱ってとべずに水田に、うずくまっているアオサギの子供がいました。日没までは親が寄り添っていましたが、そのうち、あきらめたのか、立ち去りました。私としては田の中で死なれては困るので、捕まえに行ったところ、最後のカを振り絞って逃げるのです。その時発した悲しい鳴き声は、今でも耳に残っています。いやがって、つっつかれながら近くの木の下へ。2～3日生きていましたが、体力が回復せずに、カラスのエジキとなってしまいました。
9	B	スマートな姿に比し、声がきたない。
14	B	毎年池の対岸の山にコロニーができる。多いときには、300羽以上なる。
32	B	この鳥の死体が湖岸にありましたが、遠くから見るとそばで見るのとでは大きさに大変な差があり、この鳥の大きさに改めてびっくりしました。
41	B	今は田んぼが乾いているので、田んぼの中では見かけませんが、水のある時はよく田んぼで見かけます。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(アオサギ編)

受付No		
64	B	この時期になると、急にサギの姿が見られなくなるのですね。びわ湖にいつの間にかカモが増えているのと対照的に、サギがいつの間にか見えなくなっています。そしてアオサギがやけに目につくようになりました。
82	B	いつも一人でいることが多いように思う
117	B	カワウが4羽、岸近くへ降り立つと、少し向うにいた(15m位)アオサギは、カワウのすぐそばへ飛んで来た。カワウが魚を岸の方へ追いやるらしく、アオサギは、それをねらってやって来たと思われる(共生かな?)。飛んでいるにアオサギの鳴き声を聞いた。
131	B	あちらこちらと、小魚求めて、巡回しているように思った。
136	B	川に入っていたり田んぼにいたりをよく見かける。どこで巣を作っているのかなあ。あたまのうしろに毛が出ている。
220	B	1.以前には大形の鳥は少なかったが近年多く見掛ける様になった。10年程前はカメラに納めたく、一日探しても 1～2 番(ママ)見られる程度だったが、今はどこでも見られます。2 毎日定まった場所で出合う(ママ)、色取りの不鮮明な白っぽい個体があります。こちらは旧友に合った様な気持ちですが、向こうは無関心なようです。3.メッシュコード 5236-6155 彦根市金田町の用水路文禄川右岸の畑に常時 20～30 羽のアオサギを見掛けます。身をかくす小さな水路や繁みがありますので実数はこの倍程になるかと思います
227	B	水田、愛知川、宇曽川で必ず見られます。普通は塒以外では群を作らず、1 羽又は番の 2 羽で見蛤けることが多いです。＊空中から霧状に糞をまき散らすこと有り、要注意。
231	B	15年程前だろうか、大型の鳥の減少が間題になっていた頃は1日歩いても 2～4 羽しか出会えなかった。その後数は回復に向ったが個体のサイズが小さなものが多くなった様に思われた。今は個体数、サイズ共正常に見える
257	B	この鳥の親の顔が見たい。行儀の悪いやつで、糞を空中から霧状にまかれることがある。(多分、危険を感じた時)

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(ゴイサギ編)

22	A	今回の調査でコソサギは初めて見ましたが、いつも白鷺やアオサギは見ていますがゴイサギは見かけませんネ。
124	A	水のない草の生えた田んぼに10m位はなれて2羽、立っていた。
127	A	橋から双眼一で、硯寮を始めると、下流へ飛び去った。
181	A	ここを通るとたいてい、ゴイサギ、コサギ、アオサギ、などがたくさん木に止まっているのが見られる。今日はゴイサギの集団だけだったが。
208	A	田のはたの桧のてっぺんにいる。
233	A	親からはぐれたヒナか、フクロウの類に似た体色の幼鳥、カキの木の手のとどく種の高さに止り、近づいても逃げない。赤茶色の目が目立ちます。
266	A	この日は青サギとダイサギとゴイサギが1羽づつ。青サギとダイサギは川口の水中にゴイサギは川口に積まれた石の上に水面をみつめていました。マダラ模様の青サギと、少し小型の灰色のゴイサギが背をまるめていました。今回の調査でゴイサギはほとんどみかけませんでした
124	B	10m位南側を車が沢山往来しているが、気にしていない様子。
127	B	この時、キレイな緑色のカワセミを一羽見た。下流50mから、橋をくぐって、上流50m位の所に降りた。流れのすぐそばに。
233	B	1.夏の終りごろだったか、同様の色、大きさの幼鳥をこの辺りの水辺に多数(毎年)見ている。 2.夏の夕方～夜、街灯より少し高い所を多数がヒラヒラグルグルと廻り、時々グェーグェーと鳴いているのは多分ゴイサギだと思います。(ハシボソガラス(3)、アオサギ(1)も見ましたが、同じ場所で以前に載告しましたので省します。)

身近な鳥を調べでみよう・調査で気づいたこと(ハシブトガラス編-1}

受付No.		
7	A	いつも2羽で、栗の大木に止まって回りの様子をうかがっている。生ゴミを畑に捨てるのを待っていて、近づくだけで「カーカー」と催促。落花生が大好きで、収穫後、干しておいたら、「カーカー」鳴きながら(ツバが止まらないよというような声)スキを狙って近づいてきます
10	A	稲刈り取った後の田に集団で飛来し餌をとっている
24	A	集藩から僅かにはなれた田圃の中の幹線道酪(町道?県道?)に子ダヌキ(車にはねられたらしい)の死体を10羽位でつついていた。
35	A	ダムの両岸の山々を往復しているらしい。かなり高空を飛んでいた。尾根の近くで追っかけっこしたり、活発に動いていた。
38	A	場所は一定でないが普段は多さんいる。シュロの実を食べていた。畑の作物を荒らすので、鏡（両面が特によい)を多さんつるして予防しているが、効果は大変によろしい。
40	A	電柱の上によく止まる。鳴き方から同じカラスと思う。いつも止まって鳴いている時、南の方からもう1羽が飛んでくるそのカラスに誘われるように北東の方へ飛んでいく。
50	A	生コミを畑にすてに出るとすぐに電線から柿の木に移り、次第に畑へとおりて来た。人をおそれていない。
80	A	成谷から金勝寺方面へ走り、途中右折して桂谷池を目指した。この池に3年程前の春先に何か分からないが烏が浮かんでいた記憶で、カイツブリ?を想像して行ってみたが何も見られず、近隣の公園でカラスを発見したのが唯一の収穫だった。
88	A	ごみの集積場にいた。
89	A	小野神社の森に住んでいる様で、近くの柵川公園で遊んでは森に消えて行く。
101	A	水鳥に餌やるとそれを食べに来る。
113	A	大木もある森で、当日は8羽見られた。100mほど南西の小生の畑の柿の木にも、よくやって来て、実をつついている。この畑は来春、第2名神違絡道路工事が始まり、50年位の柿の木もついこの聞、伐り倒した。
114	A	牧場に電柱があり、ハシボソカラス3羽とハシブトカラス8羽が混って止まっていた。双眼鏡でよく比較できたのですぐ分かった。
119	A	対岸で水の減った斜面に歩いたり、ついばんだりしていた。やや遠くて判定にくかったが、鳴き声でハシブトと思った。
126	A	頭が丸く出ていて、くちばしも太く、ハシブトと同定した。
135	A	人家の軒あたりに下りて何かさがしていたが、私が通ると電線へにげた。
150	A	集落以外にも多く見られます。例えば麦地に集団(50～100羽)が餌を取っている所とか、河川近くの林にタ方多く見られる。又、夏より秋にかけて農作物にあたえる被害には閉口している
162	A	池で水浴びをして、羽づくろいをしているカラスを見たのは初めてだった。すぐそばに、ダイサギとカルガモのつがいがいた。
171	A	約30羽が川岸の木に止まったり、柿の実をついばんいだりしていた、約20羽が川で水浴びをしたり、餌を取ったりしていた。大群なので、そばを通るのが恐かった。
201	A	カラスはすばしこくてカメラを構えたときにはもう飛び立ってゐます。いろいろやって見ましたが失敗ばかり、今回は車の中から窓を透して、電線に止ったところを撮りました。
202	A	朝、夜明け前とタぐれ時、大群となって、三上山周辺を飛んでいて、三上山近くの田や、工場の屋根などで休んでいます。景近私の住んでいる団地内で昼聞居るカラスの数が増えたように思います。
221	A	ガアガア鳴くハシボソカラスの群れのそばを通り過ぎて少し歩き、後からカアーの声を聞くと、どう扱ってよいのかに困ります。
245	A	この時は河川敷内の鳥が非常に少なくトビ1,ア才サギ1,ハシボソガラス1のみであった。寒く、方向の定まらない風が吹きあれていた為か。
265	A	この日は二種類のカラスが同じ電柱に二羽づつ止っていました。夏頃はもっと多く数がガアガア、カアカアと早朝から鳴いていました。
270	A	カラスの声がしたので外に出たら、電柱に2羽とまっていました。すぐに双眼鏡で見ようとしたのですが1羽は飛び去り、1羽を観察しました。その1羽も同じ方向に飛んでいってしまいました。声は室内で聞いた1回のみ。
292	A	電柱に止まっている。付近のゴミ置場のゴミを漁っていることが多く、時には人聞を襲うこともある。
300	A	堤防上の道路を車で通り抜けるだけなら、カラスは飛び立たないが、車を止めると車外に出なくても、対岸の方へ移動してしまう。川沿いには、畑も多く、野菜の収穫期には、カラスに荒らされることが多い。
24	B	上古賀の集落から安曇川を挟んで中野の集落の肉牛の牛舎の近くでは数百羽と思われる程の数のカラスが電線に止っているのを冬場よくかけます。
35	B	山には、小さな丸い柿が、鈴なりに色づいていた。集落にも近づいてゆくのではないかと思った。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(ハシブトガラス編-2)

受付 No.		
36	B	人間が死亡する前によく鳴くので嫌われている鳥。ゴミ類をまぜる。
40	B	①この辺では、一年を通じて秋はカラスの数が比較的少ないように思う。多いのは 5 月頃、畑の青虫が多発し、えんどう豆が実る頃から、8 月初め、お墓参りをする頃まで。お墓のお供えをねらうのか 20 羽ぐらいが墓地の上にいる。②カラスは身近かな鳥ではあるけれど、観察となるととてもむつかしい。近づくと逃げられてしまう。はなれると黒くて顔がよく見えない。双眼鏡を取りに行っている聞に逃げられたり、高い所に止まっているのを下から見ると顔がよく見えなかったり。
101	B	水鳥の餌場に集まってくるので、その上の木の枝などにタコ糸を 5～6 条張ると、カラスは来な<なる。また餌を夕方やると、水鳥は一般に夜行性でよく餌を食べ、カラスは夜やってこないし、カラスがやってく朝までにカモは餌食べてしまう
112	B	昔(S20 年～30 年代)漁師は猟師にカラスを猟銃で撃ってもらって、おいさで漁の竹の棒の先につけていました。
113	B	小生の畑にやってくるのは、3 羽位で、他のカラスは、別方向へ行くらしい。近くの滝樹神社の森で、休憩して、また、やってくる。次郎柿の木を伐る時、カラスは揃って、大声で鳴きたてていた。
114	B	一本の電柱の各腕木に止まっていて、車中から、ゆっくり観察した。2 種が仲よく、止まっているのを初めて見ました。土山町頓宮(名神栗東ゴルフ場東)コード 5236-3241 の通称「新池」(水深 15～20m)には、澄んだ水が、満々とたたえられていたが、水辺の鳥やカラスなどには、一切出合わなかった。池の囲が急斜面で浅瀬なし。
119	B	露出した湖底の泥の上をエサを探していた。ずっと右手に、釣り人が一人いたので、そちらには、鳥は一羽もいなかった。ヒドリガモが 20 余羽、こちら側の岸にいた。
135	B	いい声ですね。
150	B	身近な鳥図鑑のコピーでもあれば頂きたい。判別が簡単に出来ると思います。
201	B	この調査地とは別ですが、住い近くの和迩公圓の川向いの森にカラスの巣があるようで、毎日夕方 5 時頃になると申し合わせたように、方々から 5 羽～10 羽とやって来て、いっとき公園の電線上や、民家の屋根に止まり、榛子を見てゐる。そのうち仲間が次第に増え 100 羽も越えるほどの大群になると、一勢に森に突撃します。ところが森の中には先着隊がかなりの数居て、此の後続組と一緒になって、上空に舞上り飛び交い大騒ぎします。何をしてゐるのか解りません。それもしばらくでやがて森の梢に全部戻り静かな日没が肪れます。日本の歌児童唱歌の「カラスと一緒に、かえりましょう…・・」や r カラスが鳴くから、か一えろ一」の情景そのものです。望遠鏡で見て、ハシボソガラスの群れのようでした。
202	B	10 年<らい前かと思います。子どもと散歩していると、きったない腕時計が落ちていました。油まみれで、ベルトも切れていましたが、誰かが落としたのかと思い、ブロックべいの上に置いたところ、一羽のカラスが、ギャーギャーと鳴きながら、私の頭近くを飛んできました。カラスは光る物を集めると聞いたことがあります。私が見つけた時計を探していたのでしょうか。
221	B	かなり昔のことになりますが、有害鳥駆除(銃猟)に参加したことが一度だけありますが、銃を持った人を見るとすぐに居なくなります。取れた個体は全て若い個体のように(羽色、脚の細さ等)見受けられました。
270	B	以前はカラスの声をよく聞いていたように思います。ごみ問題と関連して、姿もよく見かけていたように思います。最近、声も姿も周辺から消えたように感じられるのは何故なのでしょうか。何だかやっぱり寂しい思いがします。
300	B	いつも見慣れているカラスも、よく見ると種類が混ざっているのに初めて気がついた。柱などに 1～2 羽程度止まっているのは気にならないが、人が寄りつかない河原に集団でまとまっていると無気味な感じがする。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(ハシボソガラス編-1)

受付No.		
6	A	全身をつかって「カーカー」と鳴いています。
42	A	2羽が同じような行動を(例、一羽が飛び立つと、同じように他の一羽も飛び立って木の枝に止まる)した。
43	A	周囲をキョロキョロ見ていたが、一羽がカァーカァーと鳴いて飛び立つと、あとの一羽も同じようにカァーカァーと鳴いて後を追って飛び立った。
55	A	畑を掘りおこした後すぐに、6～10羽餌をとりにどこからかおりて来た。人の行動をよく見ている。
86	A	1羽が柿を食べている所へもう1羽が飛んで来ると、先にいたカラスは、場所をゆるかのように飛び立った。もう1羽が屋根の上で鳴くと、もう1羽が遠くから飛んで来た。仲の良いグループだと思った。わからないが雄雌いるのだろうと思った。
87	A	川の中で羽を立てて水浴びをしていた。4分ぐらいすると北側の木の上(10m ぐらい)に止り、体を振り滴を飛ばしていた。口ばしで羽の下の毛をとぐようになでていた。
107	A	田んぼへ降りて土の中の虫や草を採っては民家の屋根の上に上っている。
125	A	一羽が、耕したばかりの畑で、ついばんでいた。すぐそばの電柱のてっぺんに、もう一羽いて・い感じの声で鳴いていた。
137	A	電信柱のてっぺん、電線の基部にとまって時々鳴きながら、すっとあたりを見回していた。何かをしているのだろうか、それともなわばりを宣言しているのか。
145	A	ハシブトガラスよりおとなしい(やさしい)感じがする
147	A	ダイサギが冬耕された田を突っついていた所へ下りてきて、付かず離れずの距離を保ちながら耕運の周辺を餌とりながらチョンチョンと歩いていた。
168	A	信楽町を1時間ほど走ったが、不思講なほど鳥を見かけない。場所や時間帯のせいかとも思うが、地域性なんだろうか、
204	A	この付近は田んぼの広い地域であり、サギ類の存在を目指したが残念乍ら発見できず、カラスも少なかった。ビラデスト今津は該当の鳥類は発見できず。
207	A	ここのカラスは田に水があるときも田に入り、サギなどと同じようなえさのさがし方をしている。
238	A	この日は特に少なかった。多い日は30mスパンの電線へ7スパン程上下2段にメジロ押しとなる。(トピもほとんど同様、荒神山を塒にする。)
243	A	河川敷の地面、河川林に多数集まっている河床の露出面が多い時には多数集まる。
253	A	ここはカラスの塒である荒神山の近ですが、カラスがあまり集ることはありません。
254	A	自転車で逼過の一個所だけをカウントしましたが、ここ以外にも点々と見受けられます。この様に高密度な所は他にも一個所あります、ここは流れの上下50m程の間で13羽が見られた。ＪＲ鉄橋～国道8号線間の合計では25羽程はいたと思います。
262	A	数えた数が124羽、実数はこの倍ほどになると思われる。荒神山の群れが降り立った為に100羽を越す数となった。
267	A	この日は二種類のカラスが同じ電柱に二羽づつ止まっていました。夏ごろはずっと多くのカラスが早朝から鳴いていました。昔からカラスはたくさんいます。
278	A	近江中庄駅を中心に東側の広大な田んぼ、水路、西側のR161までの田畑・水路を探素したが鳥類は、トンビ以外全く発見できず。たまたまハシボソガラスが頭上を通過したのみ。
284	A	2分程の間に7,15,30羽の群が通過。その後も続々と後から後から続いていた。飛び方が異常に見えた。家並みの間を路上すれすれに、家の間を、屋根すれすれに等、真一文字に黒い地吹雪の様に続々と飛び続けていた。
285	A	大部分が9：30頃北(荒神山方向)へ飛び去り、80羽程となる。電線への止まり方は、始めは電柱に近い位置から、電柱かられた所は後回しとなり、最終的にも密度が小さい。
291	A	ゴミ袋を破って、生ゴミを漁っている。土曜日にゴミ出しに行くが、顔をおぼえているよう
302	A	時折ガアガアと濁った声で鳴く。ガアのアの時に頭は下ると思っていたが、よく見るとガの時が下でアの時が上っている。下からすくい上げるように鳴いている。カラスを見なくても鳴き方を聞いて、ハシブトかハシボソかわかるようになった。
6	B	農作物荒らしのハンターとして、そのズルがしこさには感心します。スイカ・トマト・トウモロコシにネットや糸を張って防いでいます。今年はリンゴを全部食べられてしまいました。食べると言うよりつっついて落とすだけ。それから学習能力が非常に高い。以前は石を投げるマネだけで逃げていったが、今では逃げだす構えだけ。賢いですネ。
43	B	今年私の家の軒につばめが巣を作りました。5羽生れて、20日位い経過した早朝、カラスに襲撃され一羽残りましたが、その一羽も2･3日後に死にました。カラスの賢こさにビツクリしております。
86	B	同じカラスかわからないけれど、この柿の木の側(10m ぐらいはなれた所)に栗の木がある。2年ぐらい前だけれど巣を作った。ひなが巣立つ時に、近所では、大騒ぎをした。よく飛べないひなを人は助けたつもりだが親は、ひなをいじめていると勘違いをした。巣の下を通ると低空飛行をして、人は怖がった。時には集積場のごみをつつくのもこのグループのように思う。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(ハシボソガラス編-2)

受付No.		
87	B	昔から黒い物の例えに、カラスのぬれ羽色という言葉がある。光沢のあるとても美しい黒。見とれるくらいの美しさであった。
107	B	①墓参りをするとすぐに近くへ飛んで来て、人間が帰ったあと供物を食べにくる。②西瓜、瓜、柿など食べにくるのでネットを張って予防している。
125	B	頭の形も、くちばしも、スマトなので、ハシボソカラスと同定した。
137		よく見る。ハシブトとまじっていることも多い。このあたりが、草地と森林の両方があるからだろう。
147	B	以前はゴミの日によく見かけていたのに、この調査がスタートしたとたんに、カラスを見かけなくなった。明け方時々ですが、2羽のカラスが鳴き交わしているのを聞くのですが、姿を見かけたことがなく、報告出来ず残念です。
151	B	カラスへの興味を持つようになって数年、身近な鳥であるのに、関心がなかった時は、カラスが飛んでいる、という程度でした。カラスは群れ意識が強い。田んぼにあったエサをめぐって、一匹のネコを四方からチョッカイかけているのを見ました。カァーカァーと鳴きさわいでいるのに、じっと見ていた私も私ですが、とうとうネコはあきらめて逃げてゆきました。夏の暑い日中、扇子のように羽根を広げている姿はおもしろい。真赤な目をして、ドラムカンふちにとまり、その1m近くを通りすぎる私を、ものうげく見ているス姿に、思わず、お前も大変だね、と声
207	B	広大な水田の中に1ヶ所、ビニールハウスの骨があり、いつもそこで羽を休めている。メツシュコード5236-3164古城山はカラス数百(数千?)羽の巨大なねぐらであり、太陽が登ると、この方向からカラスがやってきて、夕刻はみなこの方向へ帰る。空を飛んでいるのをパラパラとよく見る。
222	B	1.荒神山を塒にするものすごい数のハシボソガラスとトビが見られます。トビは熱上昇気流(塊)一個につき30羽程、それが3～4本もの“トリヤマ状”に立ちのぼります。そこには必ず数羽のカラスがトビをつつきに来ます。2.トビの群れが畑に降り立った姿は石地蔵の様ですが、そこへはすぐにハシボソガラスが集まります。これは攻撃等の意識によるものではなく、デコイに引き寄せられる様な、本能にプログラミングされた心の傾きによるものではないかと思っています。＊デコイについて図付きの説明文あり。3.ポルトガルではカラスは料理用
285	B	電線上の密度は電線の弛んだ所は揺れが大きい為か?個体間に順位は有るのだろうか、もし有るとすれば優位の個体が電柱近くを占めるのだろうか?劣位のニワトリに大きな鶏冠のかつらを付けると優位になる映像を見たことがあります
302	B	カラスと聞けば畑のいたずらもの。そのようなイメージは今も続いているが、調査をしているうちに親しみが湧いて来た。おいしい柿がある、みんなおいでと仲間を呼んでいる鳴き方、もう日が暮れる山へ帰ろうと鳴きながら飛んでいく姿、小さな鳥たちとも仲の良いカラス、調査の対照になって本当によかった。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(カラス編)

受付 No.		
164	A	2～3 羽で見かけることが多かったが、ここは一ヶ所にたくさんいたので、目についた。えさがたくさんあるらしい。
167	A	農家の人が田を耕した後から、地面をついばんでいた。信楽町の南北に車で走ったが、不思議なほど、鳥を見かけない、カラスがわずかとスズメの群れがいくつか、通った所が比較的車が多い所だったせいか又時間帯のせいか？他の地域とちょっと違った印象を受けた。
228	A	１スパン 30m の電柱の 2 段の電線 4 スパン程にメジョロ押しになってトビと共に異常に多い。
232	A	うず<まり、ほとんど動かず
234	A	うず<まり、ほとんど動かず
235	A	ごみ収集場所のゴミの袋をやぶることが以前は多かった。この頃、人側で柵を作るなどして(ごみケージ)、被害は少なくなってきた。
205	B	1・私の父が子供のころ、種類不明のカラスをヒナから育てたそうです。非常になついて可愛かったがカマドの薪の火をくわえて飛びまわるので、泣く泣く山へかえしたそうです。2.カラスからの連想　カラス→ワタリガラス→レイバン→レイバンのサングラス→レイバンのサングラス十巨大なコーンパイプ=マツクアーサー今、これがわかる人は何人いますか?いつのまにか歴史の語部(かたりべ)、稗田の阿礼に近い存在になってしまいました。(私の生まれた年にゼロ戦のプロトタイプが飛んでいます)
223	B	外観でハシブトカラスかハシボソガラスかを判断出来ないことが多いです。鳴き声がいつでも聞けるとは限りません。＊一群に両種が混じることはあるか　＊行動に相違があるのか　＊見分け方の秘訣があるのかを教えて頂きたいのですが。
232	B	昨年の暮にカナダのイェローナイフへ行きましたが、街中を大きなカラス(ハシブトガラスを更に大きくした様な)が悠々と飛び回っていました。私には 2 倍弱と見えたのですが、旅行者の方達は 6 倍、6 倍と口をそろえて強調します。これは長さで 1.82 倍は容積や重量で約 6 倍ということでどちらも正しいことにあとで気付きました。このカラスは何だったのでしょうかワタリガラスでも翼長でハシボソガラスの約 1.3 倍です。ここでは日本アルプスでよく見られるのによく似た、白い冬毛のライチョウの群が日本のスズメの様に家々の軒先で餌を探していました。
235	B	彦根市の荒神山及びその南面の田畑には、やたらと多くのトビとカラス(多くはハシボソガラス)が見らます。トビの群が降りたった田畑にはカラスの群も集まります。

身近な鳥を調べてみよう・調査で気づいたこと(いない編、その他)

受付 No.	観察場所		
いない１	水口町嵯峨	A	カイツブリを探していたのですが、一羽も見つかりませんでした。これは「いない」という報告です。
		B	キンクロハジロ、マガモ、オナガカモが日なたで泳いでいたが、私が静かに姿を現わしただけで、向う岸の日かげに全部泳いでいきました。
その他１	彦根城中堀	A	アオサギ…立っている、コサギ・ゴイサギ…日光浴
その他５	草津市 志那町	A	【コハクチョウ】北方から飛んで来て着水した。その後、水面に浮かんでいる。
		B	対象外の、鳥でしたが、とにかくその飛来してくるときの姿が美しく、着水するしゅん間も感動の一言につきました。また、草津近ぺんで見られたことがすばらしいことだと思います。
その他８	土山町	A	【マカモ】少し離れていた１羽が、群に近づくため飛び上がった。1時間半後もう１度、通った時には、姿は見られなかった。休憩したのか、入江に入って、眠っていたのかな。
		B	釣り人が、岸のあちこちに十人くらいいたし、ダム周辺道路を車や、バイクがよく通るが、水面の中央部で、群で浮んでいた。
その他９	土山町前野	A	【カワカラス】鳴き声はビッビッとキレイ。ハトより大きい位で、水から出たあと、浅い所で水浴びをしていた。30 分位、1ヶ所でとどまっていた。
		B	テレビで見たが、実際に見たのは今回が初めて。水しぶきを上げて、水とたわむれていた。水流のそばのテトラポットの上で、川底をじっと見ている様子の時もあった。
その他１０	甲賀町隠岐	A	10 月 21 日付の調査用紙にカイッブリ 20 羽と報告しましたが夕方で、こちらを向いて浮かんでいたので、はっきりせず、本日 23 日、日中に再度観察すると、前項の 4 種類で予想外に多くいました。カイツブリは 1 羽もなし。
		B	【マガモ、ホシハジロ、コガモ、ヒドリガモ】図鑑で同定するのがむずかしい種がいる。風切羽が緑で全身茶褐色のがいくつも載っている。10 月 21 日報告の青土ダムのマガモは、翌日行くと、入江に群れていました。
その他１１	湖北町尾上	A	【カイツブリ、カワウ、コサギ、ダイサギ、ゴイサギ、アオサギ、カラス類】色んな鳥類が一ヶ所に集まっていた。幅約 100m 程度の範囲内。
		B	ゴイサギと言う名の由来は、昔(聖徳太子の時代)ゴイサギのキレイさに五位の位を与えると天皇が命名したと記憶している。
その他１２	大津市大萱 ７丁目	A	【マガモ、スズガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ】旅館の横であるためエサも豊富、多くの水鳥が群をなしている。

Appendix

【身近な鳥を調べてみよう】　調査資料

今回は鳥の第１回目調査として、普段田畑や、川辺、池、湖岸、などでよく見かける次の４グループ８種にしました。

1.カイツブリ
2.カワウ
3.サギ類(コサギ、ダイサギ、ゴイサギ、アオサギ、)
4.一カラス類(ハシブトガラス、ハシボソガラス)

<それぞれの鳥の特徴>

カイツブリ

大きさ:　カモより一回り小さく、ムクドリくらいの大きさの水鳥。

識別のポイント:　カモより尾が短く丸っこい、体の色は茶色っぽい、とがったくちばし、くちばしの付け根が黄色い、夏は首の赤さが強くなる。

探す場所と時間:　琵琶湖岸、河川、ため池などの水面。ヨシ原があるような場所にいることが多い。一日中だいだい同じような場所にいる。

行動の特徴:　水にもぐるのが得意、春から夏には高い声で「キッキッキッキリリリリリ」と鳴き、ヨシ原などで水に浮いたような巣(浮き巣)を作る。

コメント:　滋賀県の鳥です。琵琶湖での生息数は、毎年１月に行われる水鳥一斉調査で数がわかっていますが、ため池や川での分希は一部しかわかっていません。みんなでカイツブリの分布と数を調べてみませんか?また、カイツブリは水に潜るのか得意です。どのくらい潜っていられるのか、調べてみるのも面白いかもしれませんよ。

カワウ

大きさ:　カラスより大きい大型の水島。

識別のポイント:　全体に黒く首や体が長い、くちばしが長く先が下に曲がっている、くちばしの付け根や顔は黄色くその周りが白い、止まっているときは立った姿勢になる、水に浮かんでいるときは体がほとんど沈んでいる、ガンのようにＶ字形になったり直線になったりして群れで飛ぶことが多い。若い鳥は全体に茶色っぽく、腹に白い羽が混じる。

探す場所と時間:　琵琶湖や河川の水面、岸の砂州、水辺の杭の上。あるいはその周辺を飛んでいる場合もある。昼間はこれらの場所にいて、夜は水辺の杭や林に集まる。

行動の特徴:　水にもぐって魚を食べる、夜になると集団で水辺の林や杭のあるような場所で眠る、杭や岸の砂州などで翼を広げて乾かしていることがある、繁殖する期間が長く、1-2 月頃から繁殖行動がみられ始める。

コメント:　一時期は数が少なかったですが、1980 年代から琵琶湖でも日本全国でも増えてきている鳥です。繁殖期には、竹生島や伊崎半島(近江八幡市)の森林で集団繁殖を行います。でも、ぞれぞれのカワウがどこに餌を取りに行き、どんな一日の生活をしているのかは、まだよくわかっていません。みんなでカワウのいる場所を見つけて、いつ、どこで、どんなことをしているのかを調べてみましょう。

サギ類

サギ類の特徴:　首と脚、くちばしが長くとがっている、飛ぶときは首を縮め脚を伸ばしている、夜は林や竹林の樹上でいろいろな種類が一緒に眠る。

コサギ

大きさ:　体はカラスくらいの大きさだが、足と首が長いのでもう少し背が高く見える。

識別の特徴:　全体に白い、くちばしが冬でも黒い、足の指が黄色い。

探す場所と時間:　昼間は琵琶湖岸や河川、ため池、たんぼやたんぼの水路など。夕方には水辺の林や竹林などに集まってくる。

行動の特徴:　水辺で歩きながら餌を探している。

ダイサギ

大きさ:　コサギよりかなり大きい。

識別の特徴:　全体に白い、コサギよりもさらに首と脚が長い、冬はくちばしが黄色い、脚の付け根(ももの部分)の色がやや薄い。

探す場所と時間:　昼間は琵琶湖岸や河川、ため池、たんぼやたんぼ水路など。夕方には水辺の林や竹林などに集まってくる。

行動の特徴:　水辺でじっと餌を探したり、ゆっくり歩きながら餌を探している。

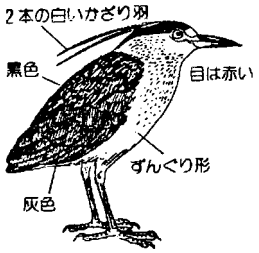
アオサギ

大きさ:　ダイサギぐらいのかなり大きな鳥。

識別の特徴:　背が灰色、首と腹側は白っぽい、翼の先は黒っぽい、ダイサギと同様首と脚が長い。

探す場所と時間:　昼間は琵琶湖岸や河川、ため池、たんぼやたんぼ水路など。夕方には水辺の林や竹林などに集まってくる。
行動の特徴:　水辺でじっと立って餌を探している。

ゴイサギ



ゴイサギ 留鳥

大きさ:　カラスぐらいの大きさ、他のサギ類よりかなり小さく見える。
識別の特徴:　他のサギ類より首と脚が短い、頭と背は緑がかった黒で模様はない、腹は白い。若鳥は、全身が茶色く白い斑がある。
探す場所と時間:　昼間は林や竹林などでじっとしていることが多い。夕方や明け方などに琵琶湖岸や河川、ため池、たんぼやたんぼ水路などにいる。
行動の特徴:　基本的に夜行性。夕方から明け方にかけて活動する。夜、飛びながらクワッと一声ずつ鳴く。

※これ以外のサギ類(今回はほとんど見られません)
チュウサギ:　主に夏鳥。コサギとダイニナギの中間の大きさ、くちばしがやや短い。
アアサギ:　夏鳥。コサギくらいの大きさ、夏は頭がオレンジ色になる。よく耕転機の後ろをついて歩き、飛び出した虫を食べる。

コメント:　いわゆる「シラサギ」と呼ばれるサギには、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アマサギの 4 種類が含まれます。サギは、たんぼにもよくいる鳥ですので、これまでのたんぼ調査の延長のような気持ちで視点を少し広げ、たんぼの鳥を調べてみて下さい。それぞれの種類で、少しずつえさをとる場所やえさの取り方が違います。　どんなところで、どんな動きをしているのか、じっくり観察してみるのも面白いですよ。

今回の鳥の調査の参考になる出版物を紹介しておきます、図書館などでご覧になって、それぞれの鳥の色、形などお確かめください。

題　名	著　者	出　版　元	価　格
「滋賀の水鳥」	口分田政博	新学者	\500
「新水辺の鳥」	安西英明　谷口高司	日本野鳥の会	\524
「新山野の鳥」	安西英明　谷口高司	日本野鳥の会	\524
「近江の鳥たち」	口分田政博　岡田登美男	サンブライト出版	\1400
「日本の野鳥」	高野伸二	日本野鳥の会	\3000

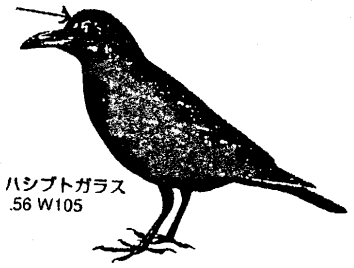
カラス類

カラス類の特徴:　全身が黒(黒くない仲間もいますが、ここでは黒い仲間に絞ります)、がんじょうなくちばし、雑食性、頭がよく学習能力がある(人の顔もおぼえます)繁殖していないときは、林で集団で眠る。

ハシブトガラス

大きさ:　大型の陸鳥。

識別の特徴:　くちばしが太い、額がでっぱっていて、くちばしとの間に段がある、カーカーと澄んだ声で鳴くことが多い。



探す場所と時間:　人家のそば、市街地、林、など、いたるところで見られる。夕方には群れで林のねぐらに戻る。

行動の特徴:　昼間はゴミ捨て場などで餌をとったり、遊んだり?していろ。夜には集団で山の林などで眠る。

ハシボソガラス

大きさ:　大型の陸鳥。

識別の特徴:　くちばしが細長い、額はでっぱらず、額からくちばしにかけてはまっすぐ、頭を上下にふりながらガーガーと濁った声で鳴く。

探す場所と時間:　人家のそば、琵琶湖岸、たんぼや畑など、いたるところで見られる。夕方には群れで林のねぐらに戻る。

行動の特徴:　昼間は餌をとったり、遊んだり?している。夜には集団で山の林などで眠る。

※これ以外のカラス類

ミヤマガラス:　くちばしが細長く、くちばしの付け根の色が薄い。

冬にときどき見られるカラス。他のカラスと比べて数は少ない。

コメント:　よく見るカラスに実は二種類いたことは、皆さんご存じでしたか?じっくり観察してその違いを見比べてみて下さい。ハシブトガラスとハシボソガラス、どちらもどこにでもいる種類ですが、実はいる場所や行動が少しずつ違います。どちらの種類がどこで、どんな生活をしているのか、調べてみて下さい。ただし!カラスはとても賢いので、あまり邪魔をすると「なんだこいつ?」と顔をおぼえられてしまうかもしれません。くれぐれも、カラスはあなどらないように。

図は「新山野の鳥」と「滋賀の水鳥」より」

200１年度第２回フイールドレポーター調査

身近な鳥を調べてみよう調査用紙

白い鳥・黒い鳥・水辺の鳥・陸の鳥

〈調査用紙の項目〉

調査用紙は、１回の調査あたり１種類ユ枚の用紙を使ってください。

用紙が足りなくなったら、コピーして下さるようお願いします。

氏　　名　　住所　　市・町・村

観　察　日:　　年　　月　　日

観　察　時　刻:　　午前・午後　　時　　分

観　察　場　所:　(地名は出来るだけ詳しく、周りの特徴も)

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

メッシュコ-ド:　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

観　察　環　境:　市街地・住宅地(※1)・集落(※2)・田・田んぼの水路・畑

林・草原・川・ため池・琵琶湖(岸・沖)・その他＿＿＿＿＿＿

天　　気:　晴れ　　曇り　　雨　　雪

風　向　き:　北　　北東　　東　　南東　　南　　南西　　西　　北西

※1 住宅地とは、新興住宅地のような田畑が無いか、少ない住宅街をイメージしてください。

※2 集落とは、古くからある家の集まり。

◇見つけた鳥に○をつけてください

1.　カイツブリ

2.　カワウ

3.　コサギ　　4.　ダイサギ　　5.　ゴイサギ　　6.　アオサギ

7.　　サギであるがどれかわからない

8.ハシブトガラス　　9.　ハシボソガラス

10.　カラスであるがどちらかわからない

◇下のどの特徴から判断しましたか(○はいくっ付けて頂いてもけっこうです)

1.体の大きさ　2.体の形　3.体の色　4.くちばしの形

5.くちばしの色　6.頭の色や形　7.脚・足の色や形　8.その他１

◇鳥の数

1 羽　2 羽　3～5 羽　6～10 羽　それ以上____羽

◇鳥の行動

1.地面や水中に立っている　2.木・電線などに止まっている

3.水面に浮かんでいる　4.歩いている　5.餌をとっている　6.水を飲んでいる

7.飛んでいる(飛んでいく方向東西南北)　8.羽の手入れをしている

9.水浴びをしている　10.日光浴をしている　11.その他

その他以上の調査で他にお気づきのことがあればなんでもお書きください

_____

_____

_____

◇応用編　お解りでしたらお書きください

・この種類は、この場所で　1 毎日見られる　2 ときどき見られる　3 あまり見られない

・この種類は、この場所で以前と比べて　1 増えた　2 滅った　3 同じ

・この種類を捕まえたことがありますか?　どうやって捕まえましたか?

1 ある　(時と場所が判りましたら)

年　月　日　場　所_____

捕まえた方法_____

2 ない

・この種類にまつわること、知っていること、感じたこと、なんでもお書きください